

# 英語科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	「小学校外国語、次への一步」～外国語活動を活かした英語教育へ～	
日時	平成29年1月10日(火)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	萬谷 隆一 氏 (北海道教育大学札幌校 教授)	
参加者	約35名	
研修会 の 様子		毎年2回行っている英語部会の実技理論研修会。サマーセミナーでは主に中学校の先生方に関する指導法などの研修を行い、ウィンターセミナーでは小学校の先生方に関わりの深い「小学校外国語活動」における指導法や教材などの研修を行いました。
		今回の研修会では、講師に北海道教育大学札幌校の萬谷隆一教授をお招きしました。萬谷先生は小学校英語教育学会会長を務めるなど、小学校英語教育について大変詳しい方です。最初に2020年から教科化される「小学校外国語科」現時点での見通しについて説明していただきました。
		前半の時間は、小学生に英語を指導する際に意識したいこと、身につけさせたいレベル、子どもたちがミスしやすいポイントなどについてお話いただきました。また、学級担任と専科教員が指導する長所、課題などを参加者が話し合い発表しました。学級担任のほうが生徒の特性を理解している、専科教員のほうが専門性は高く指導方法の知識も豊富であるなど、様々な意見が出ました。
		ダイアログや単語を指導する際のポイントについて、具体例を交えて紹介していただき、参加者もペアになって体験しました。小学生に指導する際には、すぐに話す活動に入るのではなく、「下地作り」を大切に、使う表現に十分に慣れ親しむことが重要であるとお話いただきました。また、単語はすぐに書かせるのではなく、音と意味がわかっているものをなぞり書きや視写から始めることも大切であるとお話いただきました。
		最後に、これからの小学校英語の評価についての説明をいただきました。Can-Do 評価を作成する際、子どもの実態を考え、柔軟な運用と修正を考えていく必要があること、適用にあたっては、「できる」「できない」の2つではなく「( )すればできる」など中間も考えていくことが大切であるとお話いただきました。参加者からは、小学校の英語指導だけでなく、中学校の英語でつまづいている生徒の指導にも役立つそうであるとの声が聞かれました。